

第1学年 道徳科「ありがとう」「生命の尊さ D-(7)」

立場を置き換え考えた言葉を他とつなぐ中で、深い自覚と態度を育てる

二本松第一中学校 渡邊恵美

I 単元構成の工夫

【生命の尊さ】の内容項目である道徳教材を中心に単元構成を行い、日本赤十字社出典の『まもるいのち ひろめるぼうさい』の中の「ありがとう」の題材を副教材として取り入れた。自分の意見や考えを登場人物と重ね合わせることで、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度も身に付けさせることをねらいとしたい。また、生命を大切にすることは、家族など周囲の人を大切にすることにつながることで、加えて、日常生活においては、人に対してやさしさと思いやりをもって生活することにもつながるということにも気づかせたい。

生徒の実態

明るく、素直な生徒が多いが、時折、中学生としてよく見られる他人の気持ちを考えずに生命軽視の軽はずみな言動をしてしまう場面が見受けられる。アンケートの結果からは、「いのち」を深く考えることができず、自分の「いのち」は自分のものであると単純に考えている生徒が多い。

単元を通して育成したい子どもの姿

日頃、生命軽視の軽はずみな言動をしてしまう生徒たちも教材の中の身近な人の死に接する（死にせまる）場面から「いのち」がかけがえのないものであることを理解することで、生命を尊重する態度が育まれることから、日頃の生活においても人に対してやさしさと思いやりの心を持って接していこうとする姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

- 単元の最後に東日本原子力災害伝承館に訪問することを計画したことで、本単元を学ぶ必然性や関心・意欲を高めることができた。
- 総合学習とも関連させ、校外学習で習得したことを新聞レポートにし（「振り返り」）、生徒個々において「生命の尊さ」について考えたことや感じたことなどを表現させることができた。
- 「気づき→考え→実行する」理念に沿い、本単元の最後ゴールに東日本原子力災害伝承館のPRパンフレットを作成させるなど工夫した取り組みも行えると良かった。



学習計画（総時数 5 時間）

時	場面	『資料名』：学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	考える 対話する	『あなたはひかり』 ≪7月道徳≫ 自分自身の「『いのち』の在り様」を見つめ、「いのち」を大切に輝かせていくことについて考えている。	自分の大切な「いのち」という自覚のもとに、輝いて生きることについて具体的にイメージを持つことができる。
2	考える 対話する	『いのちって何だろう』≪8月道徳≫ 「『いのち』とは何か」ということについて、多面的・多角的に考え、自分の「いのち」をじっくり見つめようとしている。	作者の問いかけを自分のこととして捉え、「いのち」の大切さについて自分の行動を振り返ることができる。
3 (本時)	考える 対話する	『ありがとう』〈出典 日本赤十字社 まもるいのち ひろめるぼうさい〉 ≪8月道徳≫ 登場人物の気持ちに近づけるよう積極的に自分の考えを話すとともに、他の生徒の考えも聞こうとしている。	自己の生命が、心身ともに健康で、人間性豊かな思いやりの心がある人間関係の中で保たれていることに気付くことができる。
4	考える 対話する	校外学習≪東日本原子力災害伝承館≫ の事前学習 ≪10月総合≫ 伝承館で何が学べるのか、事前に震災で受けた様々な影響を考えている。	伝承館で学べることに関心を持つとともに、震災で受けた様々な影響について考えようとしている。
5	習得する	校外学習≪東日本原子力災害伝承館≫ ≪10月総合≫ 未曾有の複合災害の経験や教訓、復興の歩みについて積極的に見聞きしようとしている。	震災の被害状況や復興の歩みについて興味をもって見聞きしている。

II コーディネートの工夫

＜本時のねらい＞ 生命の尊さを多面的多角的に捉えさせ、いのちの大切さを深く自覚させるとともに、また、このことが日頃の生活の中における人に対してのやさしさと思いやりの心で接する姿にもつながることに気付かせる。

学習活動・内容 (T主な発問C児童の反応)
<p>1 アンケートの結果から「いのち」について考える。 (1) 事前のアンケート結果を確認する。 2 東日本大震災で起きた被害のデータから当時の被害を振り返る。</p>
<p>3 資料の朗読を聞き、どのような場面から「いのち」というものをどう捉えたかをワークシートにまとめ、発表する。 (1) 各自「いのち」をどう捉えたかまとめる。 (2) 全体で発表を行い、他の考えを聞き合う。 T: この話のどんなところから、「いのち」というものがどんなものであると考えたかな? C: 元気な人が突然なくなる→唯一 C: 自分の命は、誰かのおかげで助かった→感謝、愛 C: もしかしたら自分も命を落としていたかもしれない→偶然 C: 誰かの分も生きていく覚悟ができた→責任、前進 C: 今自分は生きていく→感謝</p>
<p>4 3を受けて、「いのち」の捉え方に対して今までの自分(事前アンケートに記入済み)と比較しながらまとめ、発表する。 T: 「いのち」の捉え方がどう変わったか、今までの自分と比較しながら変化した自分がわかるようにまとめてみよう。 C: いのちを大切にすることは当然だが、これからは支えられて生きていることに感謝するとともに、家族を大切に、友達に対してやさしさと思いやりをもって生活していきたい。</p>
<p>5 友人の考えを聞き合い、「いのち」を大切にすることは、どういうことだと思うか。日頃の生活においてできることをまとめる。</p> <p>自分のいのちを大切にすることは、家族などの周囲の人を大切にすることにつながる。また、それは日頃から人に対してやさしさと思いやりをもって生活することである。</p>
<p>6 資料: 「福島で育った私たちの思い～『東日本大震災から10年』特別企画～」を読む。</p>

＜コーディネートの実際＞
<p>3 資料の朗読を聞き、どのような場面から「いのち」というものをどう捉えたかをワークシートにまとめ、発表する。 (1) 各自「いのち」をどう捉えたかまとめる。 T: どの場面から「いのち」を感じ、その場面がもつ「いのち」の意味をどのようなものとして捉えた?</p> <p>机間巡視して生徒の考えをメモし、指名順は決めたが、教師側でつなぐ視点を見つけ、他の生徒とどうつなぎ、最終的にどんな気づきにつなげたいかという「意図的な設計」が不完全なままで授業が進んでしまっていた</p>
<p> ▲机間指導の様子</p> <p> ▲ペアで考えを聞き合う様子</p>
<p>(2) ペアで伝え合った後、全体で発表を行い、他の考えを聞き合う。</p> <p>様々な捉え方をペアから一斉でも発表させ、個々の考えを吸い上げられたが、それらをつなぎ、個々の考えを広げ深めるには十分だとは言えなかった</p> <p>T: ワークシートの内容を発表してください C: じいじが「お前は逃げろ」と言った場面 T: この場面から「いのち」がどんなものだと考えた? C: 自分のいのちも大事だが、他のいのちも大事</p>

＜コーディネートの改善＞
<p>3 資料の朗読を聞き、どのような場面から「いのち」というものをどう捉えたかをワークシートにまとめ、発表する。 (1) 各自「いのち」をどう捉えたかまとめる。</p> <p>座席表のメモを使い、指名する際、生命の尊さを多面的・多角的に捉えさせるために主人公の思いだけでなく、家族の思いにも目を向けさせるよう＝「意図的な設計」にする</p> <p>(2) ペアで伝え合った後、全体で発表を行い、他の考えを聞き合う。 T: どんな場面からいのちを感じたかな? C: じいじが「お前は逃げろ」と言った場面 T: じいじはどんな思いからそう言ったのかな? C: るみなに生き延びてほしいという思いからだと思う C: 血を絶やさないうほしいということだと思う T: △△くんも同じ場面をあげていたけど、どう思った? C: 家系が途絶えてしまったのは困ると思ったのかも C: いのちがずっとつながってほしいと願ったんじゃないかな【いのちの連続性】 T: 次にじいじが死んでしまった場面をあげてくれた人がいたけど、それはどう思った? C: いのちって無くなってしまふものであると思った C: いのちは限りがあるということ【いのちの有限性】</p> <p>初めに【いのちの連続性】につながりそうな考えを書いた生徒を連続して指名し、その中で、その行動の奥にある深い思いなどが引き出せるように考えをつないでいく。その後、「死」と「命」について考えた生徒を指名し【いのちの有限性】についての多様な考えも引き出していく。</p>

「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題
<p>○ 「『いのち』の捉え方」の事前と事後の変容がわかるようなワークシートを作成したことで、生徒個々の考えの変容を視覚化でき、実感をもって発表させることができた。</p> <p>○ 形態を「ペア」→「一斉」として考えを伝え合ったことで、個々の考えを丁寧に吸い上げることができた。</p> <p>○ 実際に震災体験のない生徒たちに、本資料を使い、主人公の立場で考えさせたことにより、疑似体験的な感情が自然とわき、考えを深めさせることができた。</p> <p>● 「生命」を「連続性」、「有限性」、「偶然性」という3つの視点で捉え、授業で取り上げる内容や生徒のあらゆる反応を予想しておく。そのような綿密な事前準備を行うことによって、視点ごとに生徒の考えが瞬時に分類でき、意図的なコーディネートのもと、生命尊重についてより深く学ぶことができると考えられる。</p>